

第14回アートフィルム・フェスティバル

会 期：2009年11月19日(木)～26日(木)、
12月1日(火)～6日(日) [13日間]

会 場：アトスペースA



本上映会は、個々のプログラムが独立性を有しつつ、それらが相互的に関係し合うことで、通常の映画史的な視点からでは得られない、メディアを横断した同時代的な関連性や連続性といったものを浮かび上がらせることになった。例えば〈フランス・ドキュメンタリーの精華〉で上映したクリス・マルケルの作品は、初期には比較的オーソドックスなドキュメンタリーといえるものだったが、8mm フィルムやビデオなどを用いるなど、映像メディアそのものへの関心を示したり、60年代の反戦運動をテーマにしたりと、〈Vital Signals (ヴァイタル・シグナル)〉で上映した初期ビデオ・アートと、方法論や主題の面で重なる部分が多いことなど、この上映会でなければ見えにくい事実といえる。そうした意味で、観客から映像の概念が根底から揺さぶられるような体験をした、といった声があったことは、象徴的な反応といえるだろう。

また、会期後半では「ダンス・アンソロジー」の上映プログラム(12月1日(火)より開始)や、「パフォーミングアーツ・ガーデン」のフォーラムでの公演(5日(土)開催)などで、公演系の観客との相互的な行き来が生じた。この流れは、6日(日)上映の『アリスが落ちた穴の中 Dark Märchen Show!!』につながり、162名の観客が集まって、当日来場した寺嶋監督やスタッフ、キャストとの質疑応答で、フェスティバルにふさわしい盛り上がりにも到るなど、特筆できる出来事となった。

□上映作品

<オープニング上映>

松本俊夫『見るということ』 2009年、94分50秒 ※愛知初上映

加藤到『冬の遮眼子』、狩野志歩『ダリア』、前田真二郎『星座』、

稲垣佳奈子『神無月』、奥野邦利『虚空の鏡』、大木裕之『死角』

<フランス・ドキュメンタリーの精華>

ジャン＝アンドレ・フィエスキ 『モッソ、モッソー・ジャン・ルーシュ』 1997年、72分

※TVシリーズ「我らの時代の映画」の一編

アラン・レネ 『ゲルニカ』 1950年、13分 ※オリジナル 35mm

『彫像もまた死す』 1953年、30分 共同監督：クリス・マルケル

※オリジナル 35mm

	『夜と霧』 1955 年、32 分 ※オリジナル 35mm
	『世界の全ての記憶』 1956 年、21 分 ※オリジナル 35mm
	『スチレンの詩』 1958 年、14 分 ※オリジナル 35mm
ジャン・ルーシュ	『僕は黒人』 1958 年、73 分 ※オリジナル 35mm(撮影 16mm)
クリス・マルケル	「シックスティーズ」
	『空気の底は赤い』 1977-93 年、180 分、モノクロ&カラー ※オリジナル 35mm(16mm ブローアップ)、愛知初上映
ジャン・ルーシュ	『少しづつ』 1968-69 年、90 分 ※オリジナル 35mm(撮影 16mm)
クリス・マルケル	「シックスティーズ」
	『また近いうちに』 1968 年、44 分、モノクロ
	共同監督: マリオ・マレット ※オリジナル 16mm、愛知初上映
	『人々は、君たちならできる、と言ったのだから』1973 年、47 分 ※オリジナル 16mm、日本初上映
	『2084 年』 1984 年、10 分 ※オリジナル 16mm 及び 35mm
	『ペンタゴンの第六の面』 1967 年、28 分、モノクロ&カラー
	共同監督: フランソワ・レシェンバック ※オリジナル 16mm
	『大使館』 1973 年、20 分 ※オリジナル 8mm(スーパー8) ※3 作品とも、愛知初上映

あいちトリエンナーレ 2010 プレイベント

小林はくどうワークショップ 『ラプス・コミュニケーション』2009 年版

<自主制作映画の現在>

木村承子	『ソーセージのハンバーグ(世界で一番悲しい合挽)』 2007 年、13 分
三間旭浩	『消え失せる骨』 2008 年、44 分
姫嶋聖治	『荒神山』 2008 年、28 分
仲井陽	『フレデリア』 2008 年、32 分
武子直樹	『幻体とモンド〜現代都市問答〜』 2008 年、24 分
鈴木拓哉	『逃げるための2つの方法』 2008 年、42 分

<「東京ビデオフェスティバル」セクション>

aプログラム TVF2005-08 セレクション 81 分 17 秒

佐竹真紀	『インターバル』 TVF2006 優秀作品賞、10 分 45 秒(日本)
ジュリアン・ルカ&シルヴァン・ピウタス	『明日は前日』 TVF2008 優秀作品賞、16 分 20 秒(フランス)
ジョージ・チョッピン・ウォン	『描写の記録;時間の足跡』 TVF2008 優秀作品賞、9 分 43 秒(香港)
フェリックス・シュティーンツ	『店主』 TVF2008 優秀作品賞、15 分 30 秒(ドイツ)
新垣善広	『だるまさんがころんだ』 TVF2005 優秀作品賞、10 分 14 秒(日本)
大木千恵子	『つぶつぶのひび』 TVF2005 ビデオ大賞、18 分 45 秒(日本)

bプログラム TVF2009 セレクション 54 分 13 秒

鈴木野々歩	『風をとって』 TVF2009 優秀作品賞、19 分 56 秒(日本)
横田将士	『記憶全景』 TVF2009 優秀作品賞、5 分 27 秒(日本)

ジェンチェン・リュウ 『建設中』 TVF2009 優秀作品賞、9 分 55 秒(フランス)
内田リツ子 『共に行く道』 TVF2009 日本ビクター大賞、18 分 55 秒(日本)

<Vital Signals 日米初期ビデオ・アート作品集>

「テクノロジー:新しい視覚言語」

a プログラム ビデオ言語論 計約 57 分

ナム・ジュン・パイク 『ベル研究所での電子映像実験』 1966 年、4 分 40 秒、モノクロ、サイレント
CTG 『コンピューター・ムービー No.2』 1969 年、8 分、モノクロ ※オリジナル 16mm
ゲイリー・ヒル 『電子言語学』 1977 年、3 分 40 秒、モノクロ
松本俊夫 『メタスタシス 新陳代謝』 1971 年、8 分
スタン・ヴァンダビーク『ストローブ・オード』 1977 年、11 分
山口勝弘 『イメージモデュレーター』 1969 年(再制作)、45 秒 ※インスタレーションの記録映像
『大井町附近』 1977 年、1 分 30 秒 ※インスタレーションの記録映像
松本俊夫 『モナ・リザ』 1973 年、3 分
スティナ & ウッディ・ヴァスルカ『腐蝕 I』 1970 年、1 分 57 秒
安藤紘平 『オー！マイ・マザー』 1969 年、13 分※オリジナル 16mm

b プログラム 拡張する形式 計約 80 分

ナム・ジュン・パイク (マース・カニングハム、チャールズ・アトラスとの共作)
『マース・バイ・マース・バイ・パイク:ブルーススタジオ』 1975-76 年、15 分 49 秒
山本圭吾 『Breath No.3』 1977 年、6 分
『Hand No.2』 1976 年、7 分 50 秒、モノクロ、サイレント
ジェイムズ・バーン 『半透明』 1974 年、2 分 15 秒、モノクロ
『両方』 1974 年、3 分 38 秒、モノクロ
飯村隆彦 『カメラ、モニター、フレーム』 1976 年、17 分 15 秒、モノクロ
『オブザーバー／オブザーブド』※抜粋版 1975-76 年、8 分 45 秒 (オリジナル 20 分)、モノクロ
『男と女』 1971 年、7 分、モノクロ
ジョーン・ジョナス 『左側 右側』 1972 年、8 分 50 秒、モノクロ

「オルタナティヴ・メディア:コミュニケーションの変容」

c プログラム テレビの解放 計約 84 分

ナム・ジュン・パイク & ジャド・ヤルカット『コマーシャルを待ちながら』 1966-72/1992 年、6 分 35 秒
中谷芙二子 『水俣病を告発する会—テント村ビデオ日記』 1971-72 年、21 分、モノクロ
松本俊夫 『マグネティック・スクランブル』※映画《薔薇の葬列》より 1968 年、30 秒、モノクロ、サイレント
デイヴィッド・コート 『メーデー・リアルタイム』※抜粋版 1971 年、8 分 30 秒(オリジナル 59 分 45 秒)、モノクロ
ビデオアース東京 『橋の下から』 1974 年、13 分、モノクロ
ダラ・バーンバウム 『テクノロジー／トランスフォーメーション:ワンダーウーマン』1978-79 年、5 分 50 秒
クリス・バーデン 『TV コマーシャル 1973-77』 1973-77 年/2000 年、3 分 46 秒
TVTV 『あと4年(ニクソン再選運動の記録)』※抜粋版
1972 年、23 分 6 秒 (オリジナル 61 分 28 秒)、モノクロ

d プログラム 共有される記憶 計約 48 分

久保田成子 『ヨーロッパ・オン・1/2 インチ・ア・デー』※抜粋版

1972 年、8 分 30 秒(オリジナル 30 分 48 秒)、モノクロ&カラー
 中島興 『マイ・ライフ』※抜粋版 1976～92 年、5 分(オリジナル 22 分)、モノクロ
 ※オリジナル:2 チャンネルビデオインスタレーション
 アント・ファーム 『アント・ファームの汚れた皿』 1971-2003 年、8 分 30 秒、モノクロ
 アラン・カブロー 『Hello』 1969 年、4 分 45 秒、モノクロ
 シャーリー・クラーク 『ティー・ピー・ビデオ・スペース・トループ パート 1』 1970-71 年、4 分 50 秒、モノクロ
 中谷芙二子 『老人の知恵—文化の DNA』 1973 年、10 分 30 秒、モノクロ、映像提供:川崎市市民ミュージアム
 ビデオインフォメーションセンター 手塚一郎
 『ラ・アルヘンチーナ頌』※抜粋版 1977 年、5 分(オリジナル 70 分)、映像提供:大野一雄舞踏研究所

「パフォーマンス:行為の記録、身体記録」

●プログラム ビデオと行為 計約 74 分

かわなかのぶひろ 『キック・ザ・ワールド』 1974 年、15 分、モノクロ
 山口勝弘 『Eat』 1972 年、1 分 30 秒、モノクロ
 マーサ・ロスラー 『キッチンの記号論』 1975 年、6 分 9 秒、モノクロ
 今井祝雄 『ビデオ・パフォーマンス 1978～1983』 1978-83 年、15 分 35 秒
 デニス・オッペンハイム『アスペン・プロジェクト/圧縮—シダ(顔)』 1970 年、5 分 22 秒
 ウィリアム・ウェグマン『作品選集1』※抜粋版 1970-72 年、8 分 (オリジナル 30 分 38 秒)、モノクロ
 ジョン・バルデッサリ 『アートの作法:葉巻辞典』※抜粋版 1973 年、6 分 (オリジナル 12 分 54 秒)、モノクロ
 小林はくどう 『ラプス・コミュニケーション』 1972 年(1980 年再制作)、16 分

●プログラム ビデオと身体 計約 64 分

ヴィト・アコンチ 『粉ノ息』 1970 年、3 分、サイレント、※オリジナル 8mm(スーパー8)
 ポール・マッカーシー『黒と白のテープ』※抜粋版 1970-75 年、5 分 (オリジナル 32 分 50 秒)、モノクロ
 村岡三郎+河口龍夫+植松奎二『映像の映像—見ること』 1973 年、12 分 30 秒、モノクロ
 ジョーン・ジョナス 『オーガニックハニーの垂直回転』 1973-99 年、15 分 15 秒、モノクロ
 出光真子 『おんなのさくひん』 1973 年、10 分 50 秒、モノクロ
 ブルース・ナウマン 『ピンチネック』 1968 年、2 分、サイレント ※オリジナル 16mm
 アンテ・ボザニッチ 『アイ・アム・ザ・ライト』 1976 年、3 分 57 秒、モノクロ
 和田守弘 『認知構造・表述』※抜粋版 1975 年、10 分(オリジナル 20 分)

All images courtesy of the artist and Electronic Arts Intermix(EAI),New York

<フランス発!新世代ショートフィルム>

シモーネ・マッシ 『犬たちの記憶』 2006 年、8 分、モノクロ ※オリジナル 35mm
 エドゥアール・サリエ 『エンパイア』 2005 年、4 分※オリジナル 35mm
 クロード・シャボ 『一瞬間』 2006 年、3 分 50 秒 ※オリジナル BETA
 エンドリック・デュソリエ『オブラス』 2004 年、12 分 ※オリジナル 35mm

※4 作品とも、愛知初上映

<「愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品」アンコール>

大山慶 『HAND SOAP』 2008 年、15 分、シリーズ第 17 弾
 ※「ヨコハマ国際映像祭 2009」CREAM コンペティション優秀賞受賞

- 三宅流 『究竟の地－岩崎鬼剣舞の一年』 2007 年、161 分、シリーズ第 16 弾
 ※「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2009」ニュー・ドックス・ジャパン部門出品
- 大木裕之 『3+1』 1997 年、82 分、16mm、シリーズ第 6 弾
 ※「山形国際ドキュメンタリー映画祭 1997」インターナショナル・コンペティション部門出品
- 前田真二郎 『王様の子供』 1998 年、40 分、16mm、シリーズ第 7 弾

<「愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品」新作プレミア>

- 寺嶋真里 『アリスが落ちた穴の中 Dark Märchen Show!!』 2009 年 60 分 シリーズ第 18 弾
 ※寺嶋監督他、出演者など関係者による舞台挨拶があります

Doll by Mari Shimizu,

Performer:Rose de Reficul et Guiggles,Mame Yamada,

Photo by Kyo Nakamura